

本州四国連絡架橋漁業影響調査*

—瀬戸内海東部におけるサワラの資源生態調査—

武田保幸・阪本俊雄

目 的

架橋の瀬戸内海東部サワラ資源に与える影響を明らかにするために、東部系群越冬場である紀伊水道における本種資源の漁業生物的モニタリング調査を実施し、また当該越冬場成立の海況特性をも明らかにする。

調 査 内 容

(1) 漁獲量調査

加太、箕島町、比井崎、御坊市、印南町各漁協の月別漁獲量を調査した。

(2) 標本船調査

箕島町、御坊市、印南町漁協所属のサワラ釣り漁船に委託した。

(3) 生物測定調査

体長測定：加太、箕島町、御坊市、印南町、比井崎、南部町、田辺の各漁協市場で漁獲物の尾叉長を測定した。測定尾数4,941尾（1989年2月～1990年1月）。

精密測定：上記漁協市場で漁獲物を随時買い上げ、尾叉長、生殖腺重量を測定した。全個体の耳石を採取し、東部サワラ年齢査定作業グループによる年齢査定に用いた。測定尾数 162尾（1989年2月～1990年1月）。

(4) 漁場の海況調査

調査船の運航による、入り込み期と越冬期における紀伊水道沿岸沖合域の海洋調査を実施した。

結 果

1989年度紀伊水道サワラ漁海況

1989年春期入り込み期、3～5月の黒潮中心部は潮岬南沖合約10～15浬と接岸の状態を経過した。

※ 本州四国連絡架橋漁業影響調査事業費による。

本報告は「本州四国連絡架橋漁業影響調査報告第55号」に報告。

水道内への暖水波及は4月上旬、中旬、5月上旬にあり、特に4月上旬のものは大きかった。これらの黒潮接岸による強い暖水波及のため、紀伊水道は16℃以上の暖水で覆われたサワラ春期漁は不漁が続き、5月上旬に終漁した。

1989年9月下旬に黒潮は紀伊水道沖合で蛇行し、10月には潮岬南沖合約120湊と大きく離岸した。その後、蛇行は熊野灘に移り、1990年冬期は30～70湊と離岸した。このため紀伊水道のフロントは南下して日の岬付近に形成され、フロントが水道中部まで北上して不漁が大きかった1989年冬期の様なことはなかった。また、紀伊水道内域の秋期サゴシ漁は例年より遅れて黒潮蛇行が安定した1989年11月下旬以降好漁になった。

生物測定調査

漁獲の主体は例年どうり0～2歳であった。本年度の来遊群の特徴は、1989年春期入り込み期は満1歳魚が漁獲の主体であったこと及び1989～'90年冬期の紀伊水道外域越冬群はサワラ、ヤナギ主体でサゴシ(0歳魚、1989年級)が極端に少なかったことである。

1988年4月から1989年3月までに担当機関が採集した合計 834個体の耳石について、当漁業生物班内で組織した東部サワラ年齢査定作業グループが年齢査定を行い、体長一年齢変換キーを作成した。